科目名	運動学実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	解剖学・生理学・運動学の知識をもとに、実際の身体運動を視診・触診を通して学び、身体運動・動作の特徴を知る。								
一般目標	さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動・動作の特徴やその仕組みについて知識を習得する。								
テキスト 参考書等	参考書:基礎運動学(医歯薬出版)、運動学テキスト(南江堂) 15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習(中山書店)、PT・OTのための運動学テキスト(金原出版)								

到達目標		
知識(認知領域) ・各関節の運動学的特徴が理解できる。 ・静止姿勢や動作時を分析方法を理解できる。		
技術(精神運動領域) ・基本的な動作について模倣できる。		
態度(情意領域) ・授業に主体的に参加できる。 ・授業内外での課題を提出できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	下肢帯および下肢の機能解剖	下肢帯および下肢を構成する骨格・筋を触察することができる。
2	下肢帯および下肢の関節運動	下肢における各関節運動の運動学的特徴を理解できる。
3	上肢帯および上肢の機能解剖	上肢帯および上肢を構成する骨格・筋を触察することができる。
4	上肢帯および上肢の関節運動①	上肢帯(肩甲帯)における各関節運動の運動学的特徴を理解できる。
5	上肢帯および上肢の関節運動②	肘関節・前腕の運動における運動学的特徴を理解できる。
6	上肢帯および上肢の関節運動③	手関節・手指の運動における運動学的特徴を理解できる。
7	頭頸部・体幹の機能解剖	頭頸部ならびに体幹を構成する骨格・筋を触察することができる。
8	脊柱・体幹の関節運動	脊柱・体幹における運動学的特徴を理解できる。
9	姿勢-静止姿勢、姿勢制御-	静止姿勢アライメントの分析、立位・座位姿勢での立ち直り・バランス反応の観察ができる。
10	歩行①	正常歩行における距離因子と時間因子を説明できる。 歩行周期の相・期を説明できる。
11	歩行②	正常歩行における距離因子と時間因子を説明できる。 歩行周期の相・期を説明できる。
12	歩行③	正常歩行時にみられる関節運動、筋活動について説明できる。
13	歩行④	異常歩行の種類と特徴を説明できる。
14	歩行⑤	異常歩行の種類と特徴を説明でき、歩行の特徴をとらえて模倣できる。
15	呼吸と循環	運動時の呼吸・循環応答が理解できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として医療・福祉領域で臨床活動に従事した経験を有する		

科目名	運動器障害作業療法評価法				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	作業療法で実施する運動器障害にかかわる評価法の概要を学習する。 上位学年で実施する評価の演習や実技をスムーズに履修できるようにするため、基本的な目的、手順、留意点を学習する。								
一般目標	運動器障害領域で一般的に用いられる評価の概要についての知識を修得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院) 新・徒手筋力検査法 第9版(協同医学出版社)、実践リハ評価マニュアル 臨床ROM 第2版(ヒューマン・プレス) 適宜資料配布								

到達目標		
知識(認知領域) 各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	意識・バイタルサインの評価	意識・バイタルサインの評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
2	形態計測	形態計測計測に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
3	関節可動域測定①	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
4	関節可動域測定②	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
5	筋力検査①	筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
6	筋力検査②	筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
7	感覚検査①	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
8	感覚検査②	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
9	上肢機能検査(STEF)	上肢機能検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
10	脊髄損傷の評価	脊髄損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
11	末梢神経損傷の評価	末梢神経損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
12	関節リウマチの評価	関節リウマチの評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
13	ボディメカニクス①	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
14	ボディメカニクス②	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
15	まとめ	各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を確認する。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として9年の実務経験がある		

科目名	運動器障害作業療法評価法実習				単位数	2	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	これまでに学んだ基礎的な身体機能評価法を、実際の患者(対象者)の治療場面を想定し適切に実施する事が出来る。								
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的な対応を修得する。・検査、測定の方法、目的、方法を対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を修得する。・対象者の状態に合わせた、適切な検査、測定方法を修得する。・検査、測定を適切な方法、時間内で実施する技術を修得する。・検査、測定の結果を適切に対象者に説明する技術を修得する。								
テキスト 参考書等	・標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) ・標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) ・作業療法技術ガイド(文光堂) ・新・徒手筋力評価法(協同医学出版社) ・臨床ROM(ヒューマン・プレス)								

到達目標		
知識(認知領域) ・各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・各評価について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。・医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える事が出来る。 ・評価対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。		
態度(情意領域) ・授業に出席する。 ・主体的に授業に参加できる。学生同士で知識・技術を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	形態計測	四肢長、四肢周径測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
2	関節可動域測定①	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
3	関節可動域測定②	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
4	関節可動域測定③	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
5	関節可動域測定④	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
6	筋力検査①	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
7	筋力検査②	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
8	筋力検査③	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
9	筋力検査④	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
10	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	知覚検査の基本を守り実際の患者を想定し適切に実施できる(使用機材の選定、目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
11	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	知覚検査の基本を守り実際の患者を想定し適切に実施できる(使用機材の選定、目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
12	上肢機能検査①	上肢機能検査(STEF)について、実際の患者を想定し適切に実施できる(目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
13	上肢機能検査②	上肢機能検査(STEF)について、実際の患者を想定し適切に実施できる(目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
14	まとめ①	種々の身体機能評価を組み合わせ、実際の患者を想定し適切に(姿勢変換、時間配分等)実施できる(目的の説明、承諾、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。
15	まとめ②	種々の身体機能評価を組み合わせ、実際の患者を想定し適切に(姿勢変換、時間配分等)実施できる(目的の説明、承諾、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	20	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として15年の病院実務経験がある。		

科目名	神経障害作業療法評価法A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について講義する。脳血管疾患の作業療法評価を主として、その他の神経障害に関しての作業療法評価について学習する。								
一般目標	脳の画像評価を修得する。各疾患に対する作業療法評価について修得する。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院)								

到達目標		
知識(認知領域) 授業で取り上げた疾患に対する評価法を説明できる。		
技術(精神運動領域) 各疾患に対する作業療法評価について模倣できる。学生同士で技術の共有ができる。		
態度(情意領域) 授業に主体的に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳の解剖生理(おさらい)	脳の解剖生理を理解し説明できる。
2	脳の画像評価1	脳の画像評価について理解し説明できる。
3	脳の画像評価2	症例画像について、障害部位の場所、程度、予測される症状が説明できる。
4	脳血管障害の評価概要1	身体機能の評価について流れと種類が理解できる。CVAの症状も理解しながら評価の概要が説明できる。
5	脳血管障害の評価概要2	身体機能の評価について流れと種類が理解できる。CVAの症状も理解しながら評価の概要が説明できる。
6	脳血管障害の評価各論1	Br.stage、上田法について説明ができる。
7	脳血管障害の評価各論2	Br.stage、上田法について学生同士で評価をすることができる。お互いに知識、技術を説明できる。
8	脳血管障害の評価各論3	脳神経検査について概論が説明でき、模擬的に実施できる。
9	脳血管障害の評価各論4	協調性評価法、運動失調の検査について説明できる。
10	脳血管障害の評価各論5	感覚機能の評価について理解できる。上肢機能検査について説明できる。
11	脳血管障害の評価各論6	反射と筋緊張の評価について説明できる。
12	神経変性疾患と神経筋疾患	パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症の作業療法評価について説明できる。
13	嚥下障害	嚥下障害の患者に対する作業療法評価について説明できる。
14	排泄障害	排泄障害の患者に対する作業療法評価について説明できる。
15	まとめ	これまで授業で学習した内容に関して振り返りを行う。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	優(3):80点以上
小テスト				評価なし	良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として病院勤務(急性期・回復期・維持期)あり		

科目名	神経障害作業療法評価法B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識学習する。								
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害に対する検査について、基本的知識を身に付ける。								
テキスト参考書等	教科書:神経診察クローズアップ 改訂第2版(メジカルビュー社) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学(医学書院)								

到達目標

知識(認知領域)
・授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。

技術(精神運動領域)
・なし

態度(情意領域)
・授業に積極的に参加できる。
・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	脳の構造と高次脳機能障害	脳の構造と役割について振り返り、理解を深めることができる
2	高次脳機能障害の評価	高次脳機能障害の評価について、種類や目的、注意点など理解することができる
3	記憶障害の評価	記憶障害の意義・目的・方法について説明することができる。
4	注意障害の評価	注意障害の意義・目的・方法について説明することができる。
5	半側空間無視の評価	半側空間無視の意義・目的・方法について説明することができる。
6	失認の評価	失認の意義・目的・方法について説明することができる。
7	失認の評価	失認の意義・目的・方法について説明することができる。
8	失行(運動・行為の障害)の評価	失行の意義・目的・方法について説明することができる。
9	遂行機能障害の評価	遂行機能障害の意義・目的・方法について説明することができる。
10	失語症の評価	失語症の意義・目的・方法について説明することができる。
11	自動車運転支援の評価	自動車運転支援の目的、方法について説明することができる。
12	社会的行動障害の評価	社会的行動障害の特徴と、作業療法評価の目的、方法を説明することができる。
13	棒体操の効果	一般的な棒体操の効果を知り、パーキンソン病患者への棒体操を考える。
14	摂食・嚥下評価	摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明することができる。
15	まとめ	第1回からの履修内容について、各項目を説明することができる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		病院にて神経障害患者への作業療法経験あり		

科目名	神経障害作業療法評価法実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識学習する。								
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、高次脳機能障害に対する検査について、基本的知識を身に付ける。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版(医学書院) 教科書:神経診察クローズアップ 改訂第2版 (メジカルビュー社)								

到達目標

知識(認知領域)
・授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。

技術(精神運動領域)
・授業で取り上げた検査について、正確かつ迅速に実施できる。

態度(情意領域)
・授業に積極的に参加できる。
・授業に出席する。

回数	授業内容	授業目標
1	記憶障害の評価	記憶障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
2	注意障害の評価	注意障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
3	注意障害の評価	注意障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
4	半側空間無視の評価	半側空間無視評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
5	失認(認知の障害)の評価	失認の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
6	失認(認知の障害)の評価	失認の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
7	失行(運動・行為の障害)の評価	失行の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
8	遂行機能障害の評価	遂行機能障害の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
9	失語症の評価	失語症の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。
10	運転支援の評価	運転支援での作業療法評価に関して、運転の動作分析とそれを行うために必要な身体機能・高次脳機能を考え、評価ポイントを理解する
11	社会的行動障害の評価	社会的行動障害の症例を読み、基本的情報、評価、問題点、目標、治療アプローチの項目に分けて考える。レポートを作成する。
12	棒体操	パーキンソン病患者への棒体操を考え、その方法や治療の効果をグループでまとめ、発表する。
13	BRS、協調性、バランス、脳神経検査	評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
14	SIAS、反射、筋緊張評価	評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。
15	摂食・嚥下評価	摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			100	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		神経障害領域の医療施設での実践経験あり		

科目名	精神障害作業療法評価法				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	精神科作業療法は作業療法の起源ともいえる領域である。精神科作業療法を理解することは作業療法そのものを理解することになる。本科目では精神障害とは何かをまず考え、そのための哲学を学び、実際にどのような評価を実施するのかを学ぶこととする。								
一般目標	精神科作業療法における評価の流れと内容を講義並びにグループワークを通して理解する。								
テキスト 参考書等	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害と作業療法 新版(三輪書店) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社) ・標準作業療法学 専門分野作業療法評価学 第3版(医学書院) 								

到達目標		
知識(認知領域) ・精神科作業療法の歴史を説明することができる。・DVD鑑賞後、感じたことを表現することができる。・評価の意義・流れを説明できる。・精神科リハビリテーションの考え方を列挙し、説明することができる。・精神科作業療法はどのような構造から成り立っているか説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に参加できる。グループワークで協調性をもって取り組むことができる。居眠りや私語なく、授業に意欲的に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	精神科作業療法の形態や診療報酬、精神科リハビリテーションモデルを説明することができる。
2	映画「精神」鑑賞①	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。
3	映画「精神」鑑賞②	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。
4	差別と偏見	ディスカッションを通して、精神障害に対する自身の考えを表現できる。
5	精神の病の処遇の歴史と作業療法	精神科医療と精神科作業療法の歴史を説明できる。
6	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。
7	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。
8	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる・グループワーク手順説明	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる。
9	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
10	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
11	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
12	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。
13	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。
14	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。
15	講義のまとめ	精神科作業療法評価の流れを説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			70	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品	○		○	30	不可(0):60未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		精神科病院で13年間の臨床経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。		

科目名	義肢装具学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・木工金属陶工室
授業概要	先天的あるいは外傷・疾病の結果による四肢欠損・切断に対して、義肢・装具を用いることで身体機能・生活機能を補い、社会生活への参加を促進する。作業療法士として、義肢装具に関する知識・技術を身につけることは必須である。この授業では、義肢装具に関する基礎的な知識を学ぶ。								
一般目標	義肢・装具の基本的な知識を習得する。義肢の適合判定の知識・技術を習得する。義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。								
テキスト 参考書等	ゴールドマスターテキスト 義肢装具学 適宜資料配布								

到達目標	
知識(認知領域)	<ul style="list-style-type: none"> 義肢の種類、適応、適合を理解し、説明できる。 義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。
技術(精神運動領域)	<ul style="list-style-type: none"> 義肢の適合判定の知識・技術を習得する。 義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。
態度(情意領域)	<ul style="list-style-type: none"> 提出物を期限内に提出できる。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業目標
1	義肢装具とは／義肢の歴史／切断原因	義肢装具の定義について学ぶ。義肢の歴史、義肢装着に至る主たる切断原因について理解し、説明することが出来る。
2	義肢の種類	義肢の種類、適応について理解し説明することが出来る。
3	義足	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
4	義手の種類・特徴①	義手の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
5	義手の種類・特徴②	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。
6	義手の適合判定	義手の適合判定について理解し説明することが出来る。
7	義肢・装具の支給制度	義肢・装具の支給制度について理解し説明することが出来る。
8	義肢まとめ	義肢に関する学習を振り返り理解を深めることが出来る。
9	装具総論、上肢・手指装具	装具の種類について理解し、説明することが出来る。上肢・手指装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。
10	体幹・下肢装具	体幹・下肢装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。
11	スプリント材料の種類・特徴・製作方法	カックアップスプリント製作手順を理解することが出来る。
12	スプリント作成	カックアップスプリントの作成が出来る。
13	スプリント作成	カックアップスプリントの作成が出来る。
14	スプリント作成	短対立装具、指伸展装具の作成
15	まとめ	装具に関する国家試験問題に取り組みつつ、理解度を確認する。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		10	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として医療機関で神経疾患、運動器疾患患者への義肢装具使用経験あり		

科目名	運動器障害作業療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	301教室
授業概要	作業療法の対象となる運動器障害を持つ対象者を理解するために、代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の介入方法を修得する。運動器障害がある対象者に作業療法を実施できるようになるために、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。								
一般目標	身体機能作業療法を実施できるようになるために代表的な治療原理を説明できる。代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の評価と治療・指導・援助法を説明できる。								
テキスト参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版(医学書院) 図解 作業療法技術ガイド(文光堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 1.治療方法選択の基礎となる推論について説明できる。 2.代表的な運動器障害の評価内容、治療計画が説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組む。		
	授業内容	授業目標
1	運動器障害のリハビリテーションと作業療法の役割	身体機能OTの3つのアプローチ方法が言える。bottom-up approachについて説明できる。top-down approachについて説明できる。インフォームドコンセントについて説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
2	作業療法の過程	作業療法のプロセスを図示し、その流れを説明できる。評価の流れ、まとめ方を説明できる。問題点の種類を列挙し、それぞれを説明できる。目標の種類を列挙し、それぞれを説明できる。「目標」として成立するために含むべき要因を列挙できる。治療計画を立案するときに考慮すべき要因を挙げることができる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
3	病期・実施場所に応じた治療・指導・援助内容	5つの臨床推論の種類をあげ、それぞれを説明できる。身体機能作業療法学で用いられる治療アプローチをあげ、それぞれを説明できる。5つの病期について説明できる。病期に応じた援助内容の概要を言える。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
4	関節リウマチ①(概要)	臨床症状を列挙できる。Stage分類・Class分類が何の分類か言える。Stage分類・Class分類の内容が言える。医学的治療の基本的な考え方(流れ)が説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
5	関節リウマチ②(評価)	標準的な評価項目と方法(内容)を説明できる。RAに多くみられる関節変形について説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
6	関節リウマチ③(OTプログラム)	関節保護の原則を言える。避けるべき動作(その理由)の説明と代替案の提示ができる。RAが使用する代表的な自助具・装具(スプリント)について説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
7	関節リウマチ④(類縁疾患)	全身性エリトマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎の疾患概要が説明できる。評価・介入を説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
8	脊髄損傷1(概要)	損傷レベルは何をもって表すか言える。ブラウンセカール症候群の特徴を言える。中心性頸髄損傷の特徴を言える。脊髄損傷による神経症状と合併症を言える。脊髄損傷の3つの排尿機構について説明できる。自律神経障害、自律神経過反射の症状を言える。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
9	脊髄損傷2(評価)	脊損に使われる一般的な評価手段と評価項目、注意事項を列挙することができる。AISAのKEY SENSORY POINTが言える。AISAのKEY MUSCLESが言える。ザンコリの機能レベル分類と残存筋(残存運動機能)が言える。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
10	脊髄損傷3(レベル別ADL)	運動機能レベルとADL到達度の関係、必要な環境調整(自助具、補装具、福祉用具、住宅改修)について説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
11	脊髄損傷4(OTプログラム)	病期ごとの作業療法の目標の違いを説明できる。病期ごとのプログラムの内容を説明できる。準備的活動について説明できる。テネデシスアクションについて説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
12	脊髄損傷5(OTプログラム)	病期ごとの作業療法の目標の違いを説明できる。病期ごとのプログラムの内容を説明できる。不全麻痺の脊髄損傷者の運動麻痺の特徴とアプローチを説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
13	熱傷	熱傷の評価・介入を説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
14	加齢性関節疾患	加齢性関節疾患の評価・介入を説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
15	骨関節疾患③(OA、腰痛等)	腰痛の評価・介入を説明できる。主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート	○			20	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士としての実務経験がある。		

科目名	運動器障害作業療法学B				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	運動器障害がある対象者に作業療法を実施できるようになるために、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。								
一般目標	代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の評価と治療・指導・援助法を説明できる。								
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版(医学書院) 図解 作業療法技術ガイド(文光堂)								

到達目標		
知識(認知領域) 代表的な運動器疾患の評価内容、治療計画が説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	骨関節疾患①(骨折総論)	骨折の総論について説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
2	骨関節疾患②(大腿骨骨折等)	大腿骨骨折等の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
3	骨関節疾患④(上腕骨の骨折等)	上腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
4	骨関節疾患⑤(腓骨断裂等)	腓骨断裂の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
5	骨関節疾患⑥(肘、前腕骨折等)	肘、前腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
6	骨関節疾患⑦(肘、前腕骨折等)	肘、前腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
7	骨関節疾患⑧(手関節、手指骨折等)	手部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
8	ハンドセラピー(モダリティプログラム)	ハンドセラピーに関する評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
9	腱損傷(屈筋腱)	腱損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
10	腱損傷(伸筋腱)	腱損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
11	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
12	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
13	末梢神経損傷②	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
14	末梢神経損傷③(知覚再教育)	知覚の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。
15	CRPS(複合性局所疼痛症候群)	CRPSの評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			80	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	20	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として約25年間、整形外科関連の医療施設に勤務した経験を有する。		

科目名	神経障害作業療法学			単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室
授業概要	神経障害領域の作業療法の基礎知識および作業療法の知識について学習する。							
一般目標	・脳血管障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 中枢神経系の変性疾患を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。							
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版							

到達目標		
知識(認知領域) 各疾患の基礎知識、作業療法の目的・意義を説明できる。		
技術(精神運動領域) なし		
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
2	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
3	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
4	脳血管障害の作業療法(失語症に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
5	脳血管障害の作業療法(失行(運動・行為の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
6	脳血管障害の作業療法(失認(対象認知の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
7	脳血管障害の作業療法(半側空間無視に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
8	脳血管障害の作業療法(記憶障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
9	脳血管障害の作業療法(注意障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
10	脳血管障害の作業療法(遂行機能障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
11	脳血管障害の作業療法(社会的行動障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。
12	パーキンソン病の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
13	筋萎縮性側索硬化症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
14	脊髄小脳変性症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。
15	神経筋疾患の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上良(2):70点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上可(1):60点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		神経障害関連施設で作業療法実施経験あり		

科目名	精神障害作業療法学A				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	本科目で、精神科作業療法実践のための理論、治療法、関連法規、社会資源を理解し、精神障害者に対する支援のための前提知識習得を目指す。								
一般目標	作業療法士としてクライアントを理解する手法と共に自己理解を促す手法を身につける。精神科作業療法実践の理論、治療法の概要を説明できる。関連法規、社会資源の知識を習得し、それらの概要を説明できる。								
テキスト参考書等	精神障害と作業療法 新版(三輪書店) 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社)								

到達目標		
知識(認知領域) ・自身の対人パターンや集団内における自身の居場所を客観的に捉えることができる。・ひとの集団関係技能を発達的に理解し、説明できる。・集団療法の効果とその構造を理解し説明できる。・自己実現理論を通して、人が成長し老いることのプロセスを自分なりに表現することができる。・作業療法評価における代表的なアセスメント法の使い方を理解し、実践することで概要を説明することができる。精神科作業療法に関連する治療法、関連法規、社会資源にどのようなものがあるかを列挙し説明できる。		
技術(精神運動領域)なし		
態度(情意領域) セラピストとして必要な基本的治療的態度を身につけ、演習で実践できる。居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラム	交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラムを体験的に理解し、自己理解、他者理解できる。
2	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。
3	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。
4	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。
5	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。
6	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子といった集団に関する知識を得、各項目の意味を説明することができる。
7	パラレル作業療法	精神科作業療法における重要な場「パラレル作業療法」を体験し、内面に起こる心情を言語化し、説明できる。
8	認知行動療法、自動思考	認知行動療法、自動思考の概要を説明することができる。
9	認知行動療法、WRAP(クライシスプラン)	認知行動療法、WRAPの概要を説明することができる。
10	心理教育、病識、家族研究、薬物療法	心理教育、病識、家族研究、薬物療法といった精神科領域における治療法を列挙し、それぞれの概要を説明することができる。
11	マズロー自己実現理論、情報処理理論	マズロー自己実現理論、情報処理理論の概念を理解し、説明することができる。
12	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
13	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
14	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。
15	講義のまとめ	本科目で履修した項目を列挙し、それらを説明することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70~79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		精神科病院で13年勤務経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。		

科目名	高齢期作業療法学				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	高齢期を迎えた対象者の心身機能の変化や、疾病等によって生活上の動作・行為に支障をきたした場合に作業療法士がどのように介入するのか座学で学ぶ。また、これからの高齢化社会において我々作業療法士の役割について講義と演習によって学ぶ。								
一般目標	高齢社会といわれる我が国の現状をふまえ、高齢期の心身の変化や障害に対する知識を習得する。また、高齢者に対する作業療法の評価や訓練方法の知識を習得する。								
テキスト参考書等	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版(医学書院)								

到達目標	
知識(認知領域)	・高齢期の心身の変化や障害について説明ができる。 ・高齢者に対する作業療法について説明できる。
技術(精神運動領域)	・高齢者に対する一般的な評価が模倣にて実施できる。
態度(情意領域)	・毎回の授業に積極的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション 高齢社会と課題・社会制度	高齢期作業療法学を学ぶ目的、高齢化社会の課題とOTの今後の役割が説明できる
2	高齢者の生理的・身体的変化	高齢者の生理的・身体的変化について理解し、説明できる
3	高齢者の生理的・身体的変化 高齢者の精神的・心理的变化	高齢者の生理的・身体的変化について理解し、説明できる 高齢者の精神的・心理的变化について理解し、説明できる
4	高齢者に多い疾患	社会福祉制度について説明ができる 高齢者の身体的特徴を体験し、高齢者の気持ちに寄り添うことができる。
5	老年症候群・フレイル・サルコペニア	認知症に関する一般的な知識を理解し説明できる
6	認知症・MCIの特徴と治療	認知症・MCIの特徴と治療について説明できる
7	アルツハイマー型認知症の特徴と治療	アルツハイマー病の特徴と治療について説明できる
8	レビー小体型認知症とその他の認知症の特徴と治療	レビー小体型認知症の特徴と治療について説明できる
9	高齢期における代表的な評価	高齢期作業療法で代表的な評価が列挙でき、説明できる
10	高齢期における代表的な評価の実践	高齢期作業療法で代表的な評価が列挙でき、実施できる
11	人権と尊厳 援助者のための一般的注意	人権と尊厳を説明でき、そのかわり方を説明できる 高齢者に対する基本的態度、高齢者のリスク管理等について理解し、説明できる
12	病期に応じた治療・援助内容のちがいを 実施場所に応じた治療・援助内容のちがいを	病期に応じた作業療法の違いを説明できる 実施場所に応じた援助内容の違いを説明できる
13	一般高齢者の作業療法 介護予防の作業療法	介護予防と自立支援について説明できる
14	認知症高齢者の事例検討	高齢者に対する作業療法に関して事例から学ぶ
15	事例報告とまとめ	実施場所に応じた援助内容の違いを説明できる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		介護老人保健施設で勤務経験あり		

科目名	地域作業療法学				単位数	1	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	地域(在宅)で安心してその人らしい暮らしができるように作業療法士やその他の業種で連携して支援するの制度や施策を学ぶ。								
一般目標	地域作業療法を支えている制度や施策を知る。それらを背景とした作業療法の実践を身につける。臨床実習Ⅰ(地域実習)において通所・訪問・精神科デイケアの機能を理解したうえで臨むことができる。								
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)								

到達目標

知識(認知領域)
・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について説明できる。・地域作業療法の実践事例が挙げられる。

技術(精神運動領域)
・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について調べる。・地域作業療法の実践事例をまとめる。

態度(情意領域)
・授業に意欲的な態度で参加できる。
・授業に参加できる。

回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション、地域作業療法の概念	「地域」で生きることに必要な要素を考え、表現することができる。地域作業療法の概念を説明できる。医学モデルと生活モデルについて説明できる。講師の介護予防関連講座における経験から作業療法士の役割を説明できる。
2	地域作業療法の関連制度と関連法規①	医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、社会資源に関する概要を説明できる。
3	地域作業療法の関連制度と関連法規②	医療保険制度、介護保険制度、障害者総合支援法、社会資源に関する概要を説明できる。講師の経験から作業療法士の役割を説明できる。
4	地域包括ケアシステム・介護予防事業	地域包括ケアシステム・介護予防事業と地域支援事業の概要や作業療法士の役割を説明できる。
5	臨床実習Ⅰ(地域実習)関連施設①	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、精神科デイケアの概要を調査し、説明することができる。
6	臨床実習Ⅰ(地域実習)関連施設②	通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、精神科デイケアの概要を調査し、説明することができる。
7	地域作業療法の実践事例①	通所リハビリテーションで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
8	地域作業療法の実践事例②	介護老人保健施設で作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
9	地域作業療法の実践事例③	訪問リハビリテーションで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
12	地域作業療法の実践事例④	訪問看護・企業を実践されている作業療法士から学ぶ。
13	地域作業療法の実践事例⑤	精神科デイケアで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。
10	地域作業療法の実践事例⑥	就労支援を実践されている作業療法士から学ぶ。
11	地域作業療法の実践事例⑦	就労支援を実践されている作業療法士から学ぶ。
14	地域作業療法の実践事例⑧	福祉領域で実践されている作業療法士から学ぶ。
15	講義のまとめ	本科目で習得した知識を基に、地域における作業療法士の役割を説明できる。

成績評価方法

	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			47	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80~89点
宿題授業外レポート	○			53	良(2):70~79点
授業態度				評価なし	可(1):60~69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		介護老人保健施設で9年の勤務経験あり		

科目名	地域作業療法学実習				単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	作業療法の対象領域として地域作業療法は、今後さらに広がりをもせる領域である。そのような領域で作業療法士として活躍するために必要な知識と具体的な実践事例を学ぶ。								
一般目標	地域作業療法の役割を学び、作業療法を実践するための計画立案を身につける。								
テキスト参考書等	地域リハビリテーション論 Ver.8(三輪書店)、地域リハビリテーション学(羊土社)								

到達目標		
知識(認知領域) ・地域作業療法の役割を説明できる。		
技術(精神運動領域) ・ケアプランが作成できる。		
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	オリエンテーション	地域作業療法学実習の学習内容を理解し説明できる
2	介護予防事業と地域リハ実践	宇部市における実践(一体的実施事業ものづくり講座)
3	介護予防事業と地域リハ実践	介護老人保健施設における集団療法を計画することができる(グループワーク)
4	介護予防事業と地域リハ実践	介護老人保健施設における集団療法を実施する準備ができる(グループワーク)
5	介護予防事業と地域リハ実践	介護老人保健施設における集団療法を実施することができる(グループワーク)
6	介護予防事業と地域リハ実践	対象者の生活史を聞き出す方法について説明でき、回想法を実施できる
7	介護予防事業と地域リハ実践	山陽小野田市における実践(わたしーと)
8	介護予防事業と地域リハ実践	山陽小野田市における実践(わたしーと) 働く場所の選択肢の紹介
9	介護予防事業と地域リハ実践	宇部市における実践(短期集中サービス事業・セルフマネジメント)
10	介護保険制度、要介護認定の流れ	介護認定の流れや介護区分のちがいを説明できる
11	ケアプラン読み取り	ケアプランとは何か、ケアプラン作成の流れについて説明できる ケアプランを読み取ることができる
12	リハビリテーション計画書作成(通所)	ケアプランから、通所リハビリテーション計画書を作成できる(グループワーク)
13	リハビリテーション計画書作成(訪問)	ケアプランから、訪問リハビリテーション計画書を作成できる(グループワーク)
14	リハビリテーション計画書作成(入所)	入所リハビリテーション計画書を作成できる(グループワーク)
15	まとめ	地域作業療法学実習の学習内容を理解し説明できる

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート		○		70	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品			○	30	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として介護老人保健施設に勤務経験あり		

科目名	生活環境論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・ADL教室
授業概要	住環境整備について基礎的知識を学習する。 福祉用具について基本的な知識を学習する。								
一般目標	住宅改修に必要な基礎知識を習得できる。 住宅改修事例を通して、作業療法士に必要な生活と住環境の捉え方に関する知識を身に付ける。 各種の福祉用具を実際に使用することで、その目的や内容に関する知識を身に付ける。								
テキスト 参考書等	15レクチャーシリーズ ADL・実習(中山書店)								

到達目標

知識(認知領域)	福祉用具について説明できる。 住宅改修について説明できる。
技術(精神運動領域)	福祉用具を制作することができる。 簡単な図面が作成でき、改修ポイントを提案できる。
態度(情意領域)	グループワークへ協動的に参加できる。提出物を期限内に提出できる。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。

回数	授業内容	授業目標
1	福祉用具について	福祉用具の定義・制度・法律について
2	福祉用具について	ベッド・ベッド周辺機器、移動、移乗用具について説明できる。
3	福祉用具について	車いす、リフト、吊具について説明できる。
4	福祉用具について	入浴・排泄用具、コミュニケーション用具について説明できる。
5	ICTサポート講座	難病や重度障害者に対するICT機器の重要性や、コミュニケーション手段を支援するためスキルについて説明できる
6	ICTサポート講座	難病や重度障害者に対するICT機器の重要性や、コミュニケーション手段を支援するためスキルについて説明できる
7	福祉用具について	3Dプリンターを用いた自助具作成を見学、体験できる。
8	福祉用具について	自助具を作成できる。
9	住宅改修の基礎知識 住宅改修の検討事項	住宅改修の基礎知識・検討事項について説明できる。
10	屋外の段差の解消 玄関、廊下の段差解消	屋外、屋内の段差解消について説明できる。
11	手すりの設置 浴室、トイレの改修	手すりの設置、浴室、トイレの改修について説明できる。
12	車椅子での環境(屋内)	車椅子での屋内環境について説明できる。
13	車椅子での環境(屋外)	車椅子での屋外環境について説明できる。
14	車椅子での環境(まとめ)	車椅子での住環境についてまとめることができる。
15	車椅子での環境(発表)	車椅子での住環境についてまとめたことを発表できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート		○		評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として9年勤務し、福祉用具の提案および住環境調整の経験あり。		

科目名	生活行為向上マネジメント論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	国や日本作業療法士協会は生活行為向上マネジメント(MTDLP)を活用した実践を求めている。MTDLPは作業療法士として必須のツールと考えられる。本科目ではMTDLPの背景や意義、プロセスを理解し、演習を通じて、臨床実習で実践できることを目指す。								
一般目標	生活行為向上マネジメントのプロセスを理解する。								
テキスト 参考書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(一般社団法人日本作業療法士協会編著) その他 適宜、プリント配布								

到達目標		
知識(認知領域) MTDLPの意義やプロセスを説明できる。		
技術(精神運動領域) 認知領域で得た知識や考え方を基に、自身の考えを表現、説明できる。		
態度(情意領域) 面接演習では節度ある態度で臨むことができる。		
回数	授業内容	授業目標
1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)概論	MTDLPの背景や意義を説明できる。生活行為と生活障害について説明できる。
2	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
3	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
4	MTDLPの流れと各シートの説明	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。
5	アセスメント、プランシートの詳細説明	それぞれのシートの流れを説明できる。
6	生活行為聞き取りシートを用いた面接経験	シートの手順を正確に追えることができる。面接演習では課題に沿って取り組み、対象者のニーズを引き出すことができる。
7	作業に焦点を当てた事例報告	MTDLPを活用する意義、作業に焦点を当てることは何かを説明できる。
8	実践事例紹介	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。
9	実践事例紹介	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。
10	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
11	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
12	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
13	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
14	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。
15	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		MTDLP基礎研修修了、MTDLP指導者		

科目名	臨床実習セミナー I				単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室、レク室、パソコン室
授業概要	1～4、9:臨床実習 I (地域実習) 準備のための科目である。実習の目的を理解し、必要書類を期限内に提出するなど、社会人としてのマナーを身につけることを主たる目的とする。その他:国家試験過去問題や解説文章などを活用して、基礎医学(解剖・生理・運動学、その他)と臨床医学(病理学等)への理解を深める機会とする。Moodleを使用したE-Learning、ヒント等の国試参考書を使用した調べ学習等を行います。また、作業療法専門学習の一環として実技練習を行います。								
一般目標	1～4、9:実習に向けた必要書類を作成し、臨床実習を遂行するための流れを理解できる。必要書類作成を通して然るべき日本語表現をすることができる。その他:基礎医学(解剖学・生理学・運動学・その他)と臨床医学(病理学等)の全範囲を履修できる。作業療法専門の一般的技能を習得できる。								
テキスト参考書等	1～4、9:なし その他:PT・OT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版、臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 最新版								

到達目標		
知識(認知領域)		
・1～4、9:臨床実習 I (地域実習)の目的を理解し、実習生プロフィールにそれを反映することができる。実習報告書を作成できる。 ・その他:基礎医学・臨床医学の国家試験過去問題を正しく解ける。また、問題によっては解説できる。作業療法専門で与えられた課題について説明できる。		
技術(精神運動領域)		
・作業療法専門の一般的技能を実践できる。		
態度(情意領域)		
・1～4、9:必要書類の期限を厳守し、プロフィール作成の指導教員に対して指導の予約を自主的にとることができる。書類を期限内で提出できる。 ・毎回の授業に参加できる。		
回数	授業内容	授業目標
1	地域実習演習(血圧測定)	血圧測定の方法を説明できる。また、監視下で実践できる。
2	地域実習演習(コミュニケーション)	コミュニケーション技術の方法を説明できる。また、監視下で実践できる。
3	臨床実習 I (地域実習)に関する講義、書類準備	臨床実習 I (地域実習)の目的や留意事項、スケジュールを理解できる。
4	臨床実習 I (地域実習)に関する講義、書類準備	実習生プロフィールを作成し、実習の目的を説明できると共に、プロフィール作成に必要な語彙力、文章力を身につけることができる。個人情報保護誓約書などの必要書類を厳守して作成できる。
5	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(1) 作業療法専門技能の練習(1)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
6	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(2) 作業療法専門技能の練習(2)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
7	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(3) 作業療法専門技能の練習(3)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
8	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(4) 作業療法専門技能の練習(4)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
9	実習報告書の作成	実習で経験したことを指定の様式でまとめることができる。
10	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(5) 作業療法専門技能の練習(5)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
11	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(6) 作業療法専門技能の練習(6)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
12	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(7) 作業療法専門技能の練習(7)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
13	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(8) 作業療法専門技能の練習(8)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
14	基礎・臨床医学の学習と習熟度確認(9) 作業療法専門技能の練習(9)	基礎医学と臨床医学の国家試験過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。
15	ゲートキーパー講座	自殺に関する社会構造と問題点について理解し、説明できる。 自殺対策の基本的事項、ストレス対処法、ゲートキーパーの役割について理解し、説明できる。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として臨床や教育の経験を有している。		